

○計画期間：平成24年12月～平成29年3月（4年4月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成27年度終了時点（平成28年3月31日時点）の中心市街地の概況

本市は、平成24年12月以降、認定基本計画に基づき、「歩いて健康 活気ある居心地良いまち」といった方針のもとに各事業を実施している。

上山型温泉クアオルト構想による事業では、国内初の取り組みである気候性地形療法によるウォーキングなど温泉保養地での滞在時間を長くするための各種プランを実施中である。上山城の拠点機能の強化や歴史的建造物などの整備により観光資源の魅力を磨き上げるとともに、それらを繋いで回遊を促す回遊ルートの整備を進めており、回遊ルートの美装化、上山城周辺の既設トイレのユニバーサルデザイン改修、歩行者誘導案内板の設置及びウォーキングの発着地点となる駐車場の整備によって、気軽に散策できる魅力的な歩行空間が完成しつつある。平成27年度は、「まちなかウォーキング」を継続的に実施し、商店街と連携した内容の充実を図り、中心市街地エリア発着ウォーキングについては全165回開催、2,391人（平成26年度全136回開催、1,711人）と参加者が大きく増加した。また、上山城や長屋門長屋において入館者が増加していることから、中心市街地への観光客や市外からの来客数の増加傾向が伺える。

中心商店街の賑わい創出のための事業として、平成27年度の各商店会による商業祭の来場者数は、十日町いろは市が7,000人、駅前黄金市が950人、石崎かっぱ市が1,000人と大きな実績を上げ、定着が図られてきている。飲食店組合による店舗巡り、商店街振興会によるプレミアム付商品券と連携した大売出しなどの各種イベントも賑わい創出に寄与している。また、商店街振興会・麺類食堂組合・菓子組合が、商店街の個店及び逸品を紹介するために作成したマップを市内各所で配布しイベントを開催したことで、中心商店街を広くPRし、市外からの来客数が増加した。

しかし、これらの効果はまだ一時的なものであり、中心市街地を回遊したり商店街を訪れるきっかけにはなっているが、回遊性の向上と賑わい維持には至っておらず、計画の目標指標である歩行者通行量及び交流施設利用者数はどちらも目標値に届いていない。

今後は、商店街マップの活用による新たな誘客や、地域資源のかみのやまワインを楽しむイベントであるワインバルによる新たな賑わい創出を、山城屋や飲食店組合等との連携によりリピーター化につなげていく。さらに、まちなかウォーキングや商業祭等を継続的に実施し中心市街地を訪れるきっかけづくりを増やししながら、地域商品券の活用等でリピーターを増加させる取り組みを進めていく。また、上山小学校改築整備（屋内運動場・多目的ホール）、高齢者サロン社会実験事業の推進、まちづくりセンター機能の充実、その他施設での取り組みを強化し、施設利用者増加を図っていく。これらの取り組みによって、新たな人の流れを創出し回遊性を高め、一時的な賑わいを日常的な賑わい維持につなげていく。

2. 平成 27 年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

目標指標の「歩行者通行量」については、目標値を大きく下回る状況であるが、回遊ルート的美装化や駐車場整備、まちなかウォーキングの広がりなどによる進展が見られ、今後山城屋整備や商店街マップの活用による新たな集客効果により、市民及び観光客の回遊性の高まりが期待される。

目標数値の「まち中の交流施設利用者数」については、平成 27 年度は減少したものの、今後上山小学校改築整備事業や高齢者サロン社会実験事業の効果が期待される。

商店会による商業祭等のイベントが定着し集客効果が見られるが、賑わい維持には至っておらず、今後も継続的に実施していくとともに、各店舗においても顧客ニーズの把握や魅力向上などの通常の見直しを充実させ、新規顧客の獲得や来店回数を増加させる対策を講じる必要がある。

また、目標達成に寄与する主要事業である上山小学校改築整備事業を実施するとともに、これまでの取り組みをさらに強化し全体の底上げを図り、今期計画終了後も引き続き回遊性と賑わい維持につながる取り組みを推進していく必要がある。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
市民及び観光客の回遊促進・商店街の利用促進による賑わい創出	歩行者通行量(休日)	2,398 人 (H21)	2,566 人 (H28)	1,651 人 (H27)	②	②
市民及び観光客の居場所づくり・市民活動の拡大による賑わい創出	まち中の交流施設利用者数	37,419 人 (H21)	60,000 人 (H28)	48,677 人 (H27)	①	②

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

①「歩行者通行量」について

平成 21 年の基準値 2,398 人に対し、基本計画が認定された平成 24 年の実績値が 1,610 人となり、基本計画における推計値を大きく下回る状況となった。認定基本計画に基づく、中心市街地賑わい創出支援事業、上山城拠点機能強化事業・特別展開催事業、回遊ルート的美装化、高齢者サロン社会実験の実施などにより、平成 25 年の実測値は 1,639 人と増加に転じ、平成 26 年の実測値は 1,799 人とさらに増加した。

平成 27 年度の実測値は、調査日の雨天が影響し、1,651 人と減少した。道路の美

装化及び歩道整備、上山型温泉クアオルト構想におけるまちなかウォーキングの広がり、商業祭の定着、高齢者サロンの利用者数増加など、ハード及びソフト事業両面において進展が見られる。一方で、それらを一時的なものでなく、回遊性の向上と賑わい維持につなげるまでには至っていない。

今後は、商店街マップのクーポン券の利用もPRしながら、市外からの新たな誘客を図っていく。また、中心市街地で実施されるワインバルでの集客を、飲食店組合との連携によるリピーター化や、県産ワインを提供する山城屋の新たな集客と結び付けて賑わい維持につなげていく。

さらに、まちなかウォーキングにおいて商店街と連携を強化した商店街を知るきっかけづくりや、商業祭で発行する地域商品券の利用によりリピーターを増やす取り組みなどにより、一時的な賑わいを回遊性の高まりと日常的な賑わい維持に生かしながら、目標達成にむけ最大限努力していく。

②「まち中の交流施設利用者数」について

平成26年度の実績値は51,080人であったものの、平成27年度の実績値は48,677人と減少した。高齢者サロンの利用者が約1,750人増加したものの、アビヤント・Kの施設老朽化による利用団体の減少、上山小学校屋内運動場整備による利用者数の減少等により、全体として前年比で2,403人減少した。大きな減少要因としては、当初計画で目標達成に寄与する主要事業としていた温泉クアオルト拠点施設整備事業が、市の他事業との関係から整備時期が延期となり実施できなかったことと、上山小学校改築整備事業が資材や人材不足等により整備時期が遅れたことが挙げられる。

今後は、ハード整備においては、今期計画で温泉クアオルト拠点整備事業の実施を見送ったものの、目標達成に寄与する主要事業である上山小学校改築整備（屋内運動場・多目的ホール）による利用者増加が見込める。ソフト事業においては、高齢者サロン社会実験事業では、新規イベントの開催、小学校や異世代との連携・交流事業等を推進する。また、クアオルト事業や映像を活用した市のPR等の地域おこし協力隊の活動と連携した新たな活動によるまちづくりセンター機能の充実を図る。さらに、働く婦人の家での主催事業の増加など、各施設での催事事業を継続し強化しながら、諸事業全体の効果により、目標達成にむけ最大限努力していく。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「まち中の交流施設利用者数」について、当初計画で目標達成に寄与する主要事業としていた温泉クアオルト拠点施設の整備時期が延期され、上山小学校改築の整備時期が遅れたことなどにより、平成27年度は前年比で2,403人減少し、3年連続の減少となったため、②と評価した。

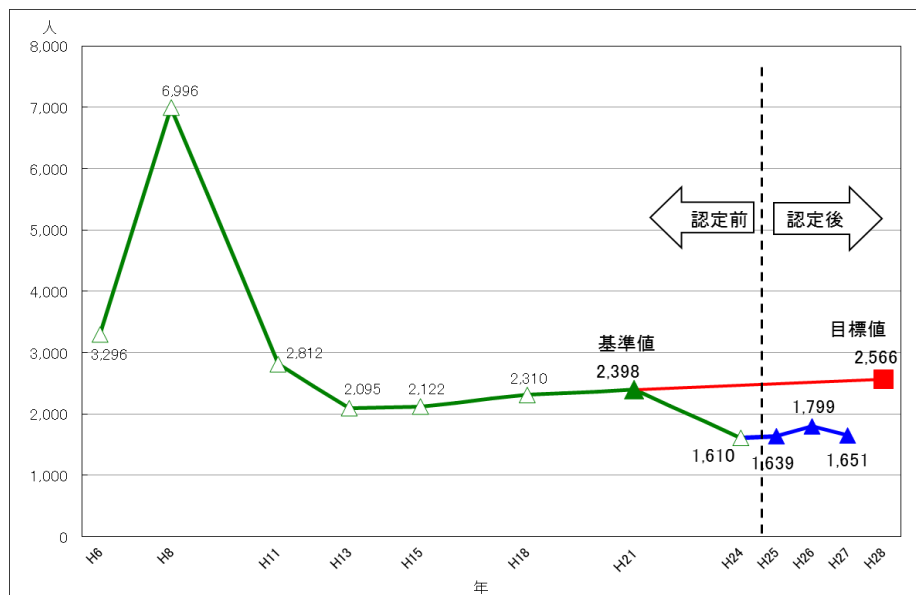
今後は、ハード整備においては、今期計画で温泉クアオルト拠点整備事業の実施を見送ったものの、目標達成に寄与する主要事業である上山小学校改築整備（屋内運動場・多目的ホール）による利用者増加が見込める。ソフト事業においては、高齢者サロン社会実験事業では、新規イベントの開催、小学校や異世代との連携・交流事業等を推進する。また、クアオルト事業や映像を活用した市のPR等の地域おこし協力隊

の活動と連携した新たな活動によるまちづくりセンター機能の充実を図る。さらに、働く婦人の家での主催事業の増加など、各施設での催事事業を継続し強化しながら、諸事業全体の効果により、目標達成にむけ最大限努力していく。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「歩行者通行量（休日）」※目標設定の考え方基本計画 P61～P72 参照

●調査結果の推移



年	(人)
H21	2,398 (基準年値)
H24	1,610
H25	1,639
H26	1,799
H27	1,651
H28	2,566 (目標値)

※調査方法：歩行者、毎年9月の第1週日曜日に7地点において8～19時で計測

※調査月：平成27年9月

※調査主体：上山市・上山市商工会

※調査対象：中心市街地内7地点（旧山交待合所、矢来三丁目、石崎A1前、カミン前、やぐら前、旧トキワ館前、旧ミヨシヤ前）における歩行者の通行

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 温泉クアオルト拠点施設整備事業（上山市）

事業完了時期	【未】平成30年度
事業概要	観光客や市民の健康ウォーキングやまちなかウォーキングの起点となるほか、観光案内機能、ギャラリーなどを併設して複合的な機能を備えて回遊型観光の拠点となる温泉クアオルト拠点施設を整備する。
事業効果及び進捗状況	温泉クアオルト拠点施設の整備については、市の他事業（温泉健康施設及び観光物産交流施設の建設計画）との関係において、候補地や事業内容の調整に時間を要したため、整備時期を当初計画から延期し今期計画では実施を見送り、今後備えるべき機能や規模等について検討していく。

②. 上山型温泉クアオルト構想事業（上山市）

事業完了時期	【実施中】平成28年度
--------	-------------

事業概要	<p>市民の健康増進と交流人口の拡大を目的に、平地の里山・温泉地区（標高 180m）と標高 1,000m の地区の標高差を活かし、両地区を連携させ、気候性地形療法による健康ウォーキングを実施する。さらに、市街地の美装化した道路を使い、まち中でのウォーキングも実施する。</p> <p>また、入浴を併用した健康づくりの連泊ツアーを実施し、健康づくりのための里山や準高所のウォーキングと市街地の歴史小路（フットパス）を活用したまち歩きや商店での様々な体験を組み合わせる事により多様な魅力づくりを行い回遊型観光の普及拡大に努める。</p>
事業効果及び進捗状況	<p>「上山型温泉クアオルト構想」を策定し、構想に基づき、ウォーキングによる医科学的効果検証、毎日ウォーキングなどを実施している。</p> <p>平成 27 年度は、商店街振興会と連携し内容の充実を図り、「まちなかウォーキング」を本格実施した。中心市街地エリア発着ウォーキングについては 165 回開催、参加者数 2,391 人（平成 26 年度 136 回開催、1,711 人）と実績が大きく伸びており、まちなかの回遊性が高まった。</p>

③. 上山城拠点機能強化事業・特別展開催事業（上市市）

事業完了時期	【実施中】 平成 28 年度
事業概要	<p>歴史資料館としての機能を強化するとともに、回遊型観光の拠点として、スクリーンなどを設置し、集客のためのイベントの開催に努めるほか、情報発信基地として、市民からも観光客からも親しまれる施設を目指す。さらに、上山城を拠点とした回遊の起点となる広場の整備を行う。</p> <p>また、上山城での歴史と文化等をテーマにした企画展示会を開催する。</p>
事業効果及び進捗状況	<p>上山城内 1 階フロアのバリアフリー化、上山城展示室の改装、観光用ソフトの作成と編集、大型パネルの設置、上山城広場舗装整備などを平成 25 年度までに完了し、平成 26 年度は売店トイレの美装化及び上山城広場舗装整備工事を実施した。また、平成 27 年度は、企画展示会を 6 回開催するなど、拠点機能強化により入館者数 56,271 人（平成 26 年度 52,273 人）と増加している。今後、試験的に商店街等と連携した特別展の実施を予定している。</p>

④. 山城屋保存・活用事業（株葉山館）

事業完了時期	【済】 平成 27 年度
事業概要	<p>山城屋旅館は、地元出身の歌人齋藤茂吉の実弟が経営していた旅館で、茂吉も頻繁に訪れていた。木造和風の建物は清楚な美しさが漂い、大正時代に建てられた旧館と蔵は国の登録文化財</p>

	<p>にも指定されているが、平成 22 年 6 月から閉館されて現在に至っている。</p> <p>この歴史的建造物を市で取り組んでいる温泉クアオルト事業を実践するための宿泊施設・休憩施設として再整備する。長期滞在にも適合する宿泊施設、まち歩きやウォーキングの疲れを癒す温泉入浴施設、地元の食材などにこだわった健康食メニューを提供するレストランに加え、更衣室、荷物預かり施設、シューズ・ウェア等のレンタル等まちなかウォーキングの基地としての機能も備える。</p>
事業効果及び進捗状況	<p>経済産業省の平成 25 年度補正中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業補助金事業の採択を受け、厨房器具等の設備投資を行い平成 27 年 4 月に施設の一部を利用してランチ営業を開始し、総務省の平成 27 年度地域経済循環事業交付金の採択を受け、厨房改装や防寒対策工事等を実施することにより、新たな顧客を獲得した。また、山形大学と連携し、県産ワインに関する顧客分析や回遊拠点としての方向性等を検討し、クアオルト事業をはじめ、他施設との結びつき強化により回遊性の向上に努めていく。</p>

⑤. 長屋門長屋整備事業（上山市）

事業完了時期	【実施中】平成 28 年度
事業概要	NPO 上山まちづくり塾と大学生がコラボレーションしてセルフビルドで改装した空き店舗長屋門長屋を、市民や観光客が立ち寄るギャラリーと体験工房として活用し賑わいを創出する。
事業効果及び進捗状況	長屋門長屋を、市民や観光客が立ち寄るギャラリー、体験工房、イベントでの企画展示として活用し、平成 27 年度は、開館日 136 日、来訪者数 1,734 人（平成 26 年度開館日 150 日、来訪者数 1,439 人）と実績が伸びており、賑わい創出に寄与している。

⑥. 道路の美装化事業（上山市）

事業完了時期	【実施中】平成 27 年度
事業概要	蔵王が眺望できる月岡公園・上山城を中心に、武家屋敷通りの美装化により結ばれた湯町、新湯の温泉街と、歴史的な街並みが残る十日町商店街を結んだ散策路の美装化等によって、気軽に散策できる魅力的な歩行空間を整備する。
事業効果及び進捗状況	道路の美装化事業の進捗状況は 94%程度で大部分の整備が完了し、まち歩きする市民及び観光客が増加したとの声も聞かれ、安全性と回遊性が促進された。しかし、国からの交付金が減少したことや財政事情により、一部実施できなかった箇所があり、今後その整備の進め方について検討していく。

⑦. 図書館・店舗連携事業（上山市）

事業完了時期	【実施中】平成 28 年度
--------	---------------

事業概要	ショッピングプラザカミン内に立地する市立図書館とカミン内店舗及びカミン外の各商店が連携し、図書館利用者が各商店を利用した場合の割引制度を推進し、商店の利用者増加につながる事業を推進する。
事業効果及び進捗状況	カミン内の市立図書館とカミン内 5 店舗が連携し、図書館利用者割引制度を実施。平成 26 年度の割引制度利用者数は 1 日平均 15～20 人だったが、平成 27 年度は連携する店舗が減少したことにより、1 日平均 10 人と減少した。今後、更なる利用店舗の拡大に向けて、カミン内他店舗やカミン周辺商店街への参加の呼びかけなどを実施していく。

⑧. 一店逸品開発推進及び特産品開発事業（商工会）

事業完了時期	【実施中】平成 28 年度
事業概要	優れた農産物、物産品、製造品などに磨きをかけ、研究会活動を通じて個店の商品の見直しと開発を進め、かみのやまブランドの形成を継続的な取組みとして実施し、個店及び商店街の魅力アップや周辺への波及効果に努める。
事業効果及び進捗状況	各商店会の自発的活動として、個店の一押しの商品などを紹介する店舗紹介及びメニュー冊子などを作成してきた。 平成 27 年度は、商店街振興会・麺類食堂組合・菓子組合が、商店街の個店及び逸品を紹介するマップを作成し、市内各所及び誘客イベントで 7,000 部配布し広く PR することによって、市外からの来客数が増加した。

⑨. 食の駅設置事業（めでた♪めでた花のやまがた観光圏推進協議会）

事業完了時期	【済】平成 26 年度
事業概要	地元食材、地場産農産物、伝統野菜を使用したご当地メニューや無くなりつつある郷土食、村山地域の伝統食を提供する店を「食の駅」に認定し、新たな魅力を発信し、滞在の促進とリピーターの確保を図る。
事業効果及び進捗状況	顧客としてのリピート率の向上と観光客の回遊性の向上を図るため、「食の駅」として「食」に限定した魅力発信から、多分野にわたって発信する「はしご湯治」「はしご御飯（ぐるめ）」の事業を実施している。 本市の魅力である「湯治（温泉）」、「グルメ」の分野で地元旅館・商店に呼びかけ、平成 25 年度に引き続き「はしご湯治」は市内 11 店舗が参加した。また、「はしご御飯（ぐるめ）」事業には 10 店舗が参加しスタンプラリーを実施した。

⑩. カミン集客力強化事業（上山二日町ショッピングセンター協同組合）

事業完了時期	【実施中】平成 28 年度
事業概要	上山市の特産品を集約した物産・産直機能を強化し、地元消費及び観光客の利用拡大を図り集客力を高める。また、観光や

	市民、各地区などが開催するイベント情報などの発信とインフォメーション機能を強化する。
事業効果及び進捗状況	カミン1階において、上山の特産品・地場製品の展示や広報宣伝事業を実施し、平成27年度は、展示事業所数20、販売事業所数21であった。さらにZAOたいらぐら直売所による農産物の直売など集客力強化を図ったが、郊外の大型小売店舗の影響やテナントの減少等により、平成27年度のカミン全体の売上高は前年比93.4%と減少した。
⑪. 中心市街地賑わい創出支援事業（各商店会、観光物産協会、商工会、各種実行委員会等）	
事業完了時期	【実施中】平成28年度
事業概要	商工会や商店街が開催する定期市、商業祭、100円商店街などの定着を図り、賑わいの創出に努める。
事業効果及び進捗状況	平成27年度の各商店会による商業祭の来場者数は、十日町いろは市が7,000人、駅前黄金市が950人、石崎かっぱ市が1,000人と大きな実績を上げ、定着が図られてきている。また、飲食店組合による店舗巡り、商店街振興会によるプレミアム付商品券と連携した大売出しなど、各種イベントにより賑わいが創出された。
⑫. 高齢者サロン設置社会実験・設置事業（上山市）	
事業完了時期	【実施中】平成30年度
事業概要	空き店舗等を改修して高齢者が気軽に立ち寄り、趣味の活動や交流ができる場を整備することにより、介護予防、核家族化や高齢化の進展に対応した支え合いのまちづくりを推進する。
事業効果及び進捗状況	市内の「ひとり暮らし高齢者等実態把握調査」を踏まえ、高齢者の孤立予防、交流促進のため、カミンの空き店舗スペースに常設型高齢者サロンを社会実験事業として開所している。 平成26年度の利用者数は16,825人であったが、平成27年度は、新規イベント、小学校との連携、異世代との交流事業等を実施し、18,588人と増加した。 平成23年度～28年度は社会実験事業として開所し、社会実験事業の総括を踏まえ、整備時期を当初計画から延期し、設置について検討していく。
⑬. まちづくりセンター充実事業（上山市）	
事業完了時期	【実施中】平成28年度
事業概要	市民によるまちづくり活動をサポートし、観光、商業分野との連携など、共通の目標に向けて調整を行うコーディネーター機能の強化を図る。
事業効果及び進捗状況	平成27年度は、地域おこし協力隊の活動と連携しながら、各種市民団体への参加・企画提案等を行った。しかし、年度途中でまちづくり活動推進員が退職した影響により、利用者数は、平

成 26 年度は 3,324 人であったものの、平成 27 年度は 2,957 人と減少した。今後、クアオルト事業や映像を活用した市の PR 等の地域おこし協力隊の活動との連携を強化し、まちづくり活動を推進していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成 21 年の基準値 2,398 人に対し、基本計画が認定された平成 24 年の実績値が 1,610 人となり、基本計画における推計値を大きく下回る状況となった。

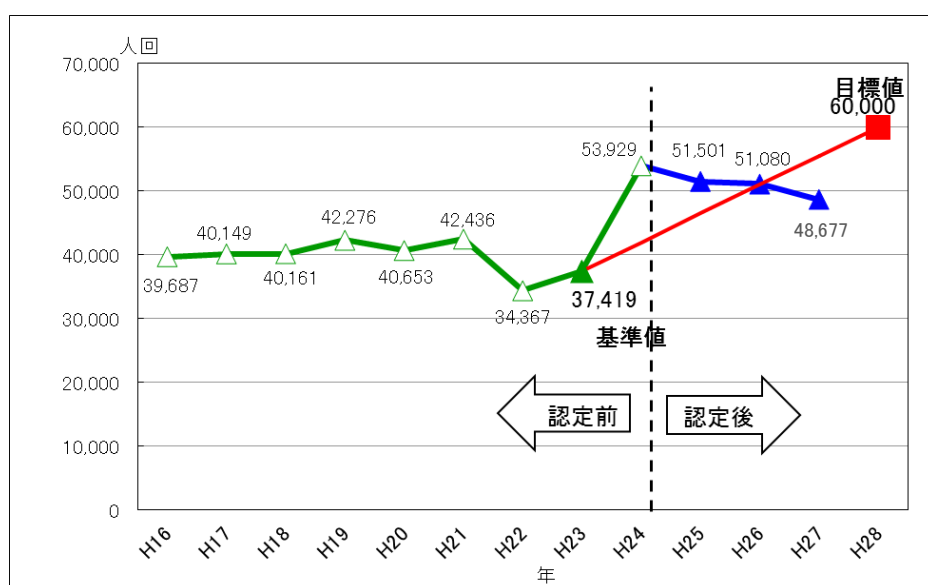
平成 26 年度の実測値 1,799 人に対して、平成 27 年度の実測値は、調査日の雨天が影響し、1,651 人と減少した。道路の美装化及び歩道整備、上山型温泉クアオルト構想におけるまちなかウォーキングの広がり、商業祭の定着、高齢者サロンの利用者数増加など、ハード及びソフト事業両面において進展が見られる。一方で、それらを一時的なものでなく、回遊性の向上と賑わい維持につなげるまでには至っていない。

今後は、商店街マップのクーポン券の利用も PR しながら、市外からの新たな誘客を図っていく。また、中心市街地で開催されるワインバルでの集客を、飲食店組合との連携によるリピーター化や、県産ワインを提供する山城屋の新たな集客と結び付けて賑わい維持につなげていく。

さらに、まちなかウォーキングにおいて商店街と連携を強化した商店街を知るきっかけづくりや、商業祭で発行する地域商品券の利用によりリピーターを増やす取り組みなどにより、一時的な賑わいを回遊性の高まりと日常的な賑わい維持に生かしながら、目標達成にむけ最大限努力していく。

「まち中の交流施設年間利用者数」 ※目標設定の考え方基本計画 P73～P77 参照

●調査結果の推移



年	(人回)
H23	37,419 (基準年値)
H24	53,929
H25	51,501
H26	51,080
H27	48,677
H28	60,000 (目標値)

※調査方法：利用者数、毎年 4 月～3 月までの実績値を集計。

※調査月：平成 28 年 3 月

※調査主体：上山市

※調査対象：まち中の交流施設 7 施設（働く婦人の家、アビヤント・K、上山小学校屋内運動場、

まちづくりセンター、上山小学校多目的ホール、温泉クアオルト拠点施設、高齢者サロン)における年間利用者数

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 高齢者サロン設置社会実験・設置事業（上山市）

事業完了時期	【実施中】平成 30 年度
事業概要	空き店舗等を改修して高齢者が気軽に立ち寄り、趣味の活動や交流ができる場を整備することにより、介護予防、核家族化や高齢化の進展に対応した支え合いのまちづくりを推進する。
事業効果及び進捗状況	市内の「ひとり暮らし高齢者等実態把握調査」を踏まえ、高齢者の孤立予防、交流促進のため、カミンの空き店舗スペースに常設型高齢者サロンを社会実験事業として開所している。 平成 26 年度の利用者数は 16,825 人であったが、平成 27 年度は、新規イベント、小学校との連携、異世代との交流事業等を実施し、18,588 人と増加した。 平成 23 年度～28 年度は社会実験事業として開所し、社会実験事業の総括を踏まえ、整備時期を当初計画から延期し、設置について検討していく。

②. 上山小学校改築整備事業（屋内運動場・多目的ホール）（上山市）

事業完了時期	【実施中】平成 28 年度
事業概要	上山小学校は耐震化のため、建て替える必要があり、その整備が急がれている。この場所は上山城、武家屋敷、湯町に囲まれた位置にあるため、周辺の景観にマッチした外観となるよう配慮をする。また、周辺を散策する人も多く、学校の一部を開放エリアとし、イベントや団体の活動として使用できる多目的ホールを有する屋内運動場を整備する。
事業効果及び進捗状況	平成 27 年度に事業実施を予定していたが、資材や人材不足等のため上山小学校の校舎建設に遅れが生じた影響により、事業期間を平成 27～28 年度に変更し、整備を進めている。

③. 温泉クアオルト拠点施設整備事業（上山市）

事業完了時期	【未】平成 30 年度
事業概要	観光客や市民の健康ウォーキングやまちなかウォーキングの起点となるほか、観光案内機能、ギャラリーなどを併設して複合的な機能を備えて回遊型観光の拠点となる温泉クアオルト拠点施設を整備する。
事業効果及び進捗状況	温泉クアオルト拠点施設の整備については、市の他事業（温泉健康施設及び観光物産交流施設の建設計画）との関係において、候補地や事業内容の調整に時間を要したため、整備時期を当初計画から延期し今期計画では実施を見送り、今後備えるべき機能や規模等について検討していく。

④. まちづくりセンター充実事業（上山市）

事業完了時期	【実施中】平成 28 年度
事業概要	市民によるまちづくり活動をサポートし、観光、商業分野との連携など、共通の目標に向けて調整を行うコーディネーター機能の強化を図る。
事業効果及び進捗状況	平成 27 年度は、地域おこし協力隊の活動と連携しながら、各種市民団体への参加・企画提案等を行った。しかし、年度途中にまちづくり活動推進員が退職した影響により、利用者数は、平成 26 年度は 3,324 人であったものの、平成 27 年度は 2,957 人と減少した。今後、クアオルト事業や映像を活用した市の P R 等の地域おこし協力隊の活動との連携を強化し、まちづくり活動を推進していく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

平成 23 年度の基準値 37,419 人に対し、平成 24 年度の実績値は 53,929 人と増加したが、平成 25 年度は 51,501 人、平成 26 年度は 51,080 人、平成 27 年度は 48,677 人と減少した。

平成 24 年度は、高齢者サロン社会実験の実施により増加したものの、平成 25 年度は、働く婦人の家の利用者の高齢化による活動サークル数の減少等により前年比で 2,428 人減少した。平成 26 年度は、働く婦人の家及び上山小学校屋内運動場の利用者数が増加したものの、アビヤント・K、まちづくりセンター及び高齢者サロンの利用者数が減少したことから、全体として前年比で 421 人減少した。

平成 27 年度は、高齢者サロンの利用者が約 1,750 人増加したものの、アビヤント・Kの施設老朽化による利用団体の減少、上山小学校屋内運動場整備による利用者数の減少等により、全体として前年比で 2,403 人減少した。大きな減少要因としては、当初計画で目標達成に寄与する主要事業としていた温泉クアオルト拠点施設整備事業が、市の他事業との関係から整備時期が延期となり実施できなかったことと、上山小学校改築整備事業が資材や人材不足等により整備時期が遅れたことが挙げられる。

今後は、ハード整備においては、今期計画で温泉クアオルト拠点整備事業の実施を見送ったものの、目標達成に寄与する主要事業である上山小学校改築整備（屋内運動場・多目的ホール）による利用者増加が見込める。ソフト事業においては、高齢者サロン社会実験事業では、新規イベントの開催、小学校や異世代との連携・交流事業等を推進する。また、クアオルト事業や映像を活用した市の P R 等の地域おこし協力隊の活動と連携した新たな活動によるまちづくりセンター機能の充実を図る。さらに、働く婦人の家での主催事業の増加など、各施設での催事業を継続し強化しながら、諸事業全体の効果により、目標達成にむけ最大限努力していく。